

平成21年度いしかわ森林環境基金 事業の主な取組と実績

1. いしかわ森林環境基金(ハード)事業

(1) 手入れ不足人工林の解消

○環境林整備の計画と実績

単位: ha

年度	H19	H20	H21	H22	H23	小計	H24~H28	計
計画 (累積)	1,300 (1,300)	2,000 (3,300)	2,000 (5,300)	2,000 (7,300)	2,700 (10,000)	10,000	12,000	22,000
実績 (累積)	1,300 (1,300)	2,041 (3,341)	2,329 (5,670)	—	—	5,670	—	5,670
達成率 (累積)	100% (100%)	102% (101%)	116% (107%)	—	—	—	—	—

※H21実績2,329haは年度内実績。加えて、計画の進捗を図るため、定額の国庫補助事業の拡充を活用し約700haをH22に繰り越して実施中。

○地区別実績

単位: ha

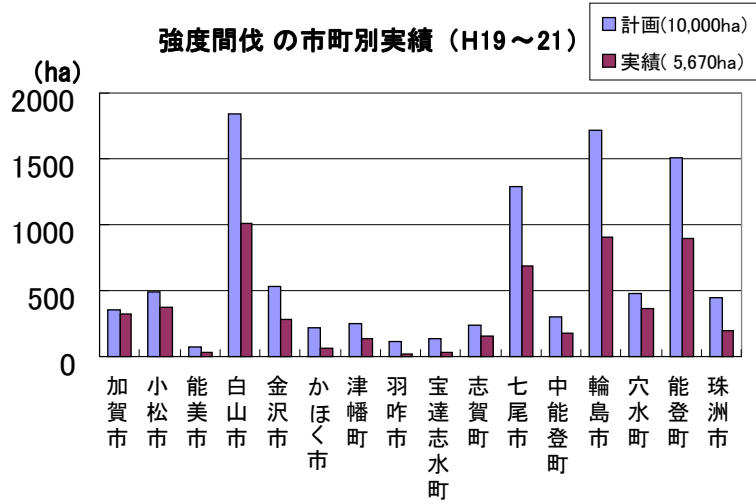
年度	南加賀地区	石川地区	県央地区	中能登地区	奥能登地区	計	達成率
H19~H21	733	1,010	477	1,081	2,368	5,670	107%
計画量	921	1,841	1,006	2,082	4,150	10,000	
進捗率	80%	55%	47%	52%	57%	57%	

※H19~H21の計画は四捨五入のため一致しない。

※達成率はH19~H21の計画量計5,300haに対する3力年の実績。

事業進捗状況

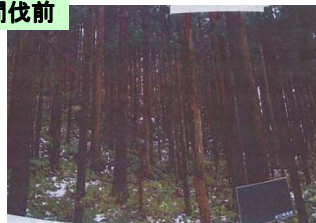
計画 10,000ha → 実績 5,670ha(H21末)



強度間伐の実施状況

加賀地区(白山市瀬波)

間伐前



間伐後



能登地区(穴水町河内)

間伐前



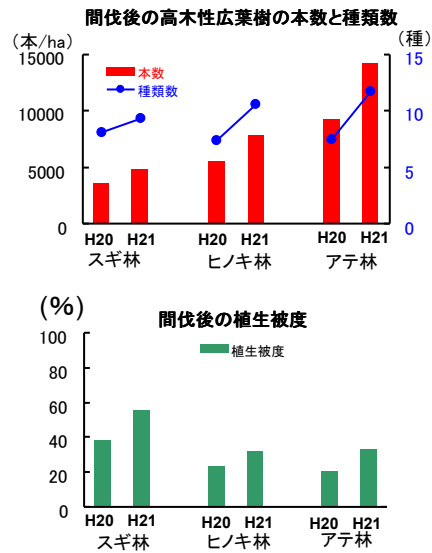
間伐後



(2) 公益的機能の確保

○環境林モニタリング調査の中間報告（植生回復状況）

間伐後の高木性広葉樹の種類数および植生被度は増加



○間伐後1年目（H20）
に比べ、2年目（H21）
は高木性広葉樹の本数・種類
数および植生被度ともに増加
傾向。

○特に、アテ林での増加割合
が高い。

植生被度：植生による地面の被覆率

間伐後3年目の状況(白山市釜谷地内)



間伐後1年(H20.10)



間伐後3年(H22.7)

強度間伐後に芽吹いた主な高木性広葉樹



ク リ



オニグルミ



トチノキ



ミスナラ

○希少猛禽類に配慮した事業の推進

これまでの対応

- H21.10 「間伐等の森林整備における猛禽類への対応マニュアル」策定
- H22. 4 「希少猛禽類の保護に配慮した間伐等の森林整備の進め方に関する研修会」開催
- H22. 6 専門家の協力による間伐実施地区周辺の希少猛禽類の営巣情報の把握

今後の取組

- ・専門家、林業事業者、行政による協議会を設置
→希少猛禽類の繁殖情報を共有し、管理するための仕組み作りとマニュアルの改良を検討
- ・間伐実施地区周辺における希少猛禽類の繁殖状況の調査

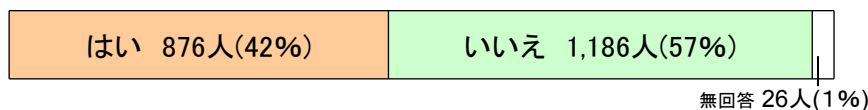
(3) 森林所有者の理解と協力

○森林所有者への働きかけ

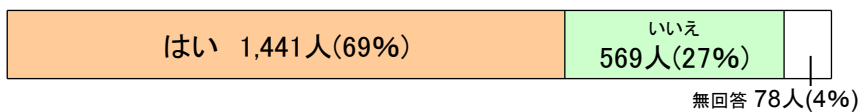
これまで協定の締結に至っていない手入れ不足人工林の森林所有者を対象に、ダイレクトメールによる意向調査を実施。

〔 対象者 7,700名 回収数 2,088名 回収率 27% 〕

問 森林環境基金事業で所有者負担なしの間伐ができることを知っていますか。



問 今後、当該事業で強度間伐を実施したいと思いますか。



(4)労働力の安定的な確保

○強度間伐を実施した建設業者の数

区分	H19	H20	H21
建設業者数	7社	9社	10社

○技術研修会等の開催

森林組合、林業事業者を対象に、強度間伐を安全、適正かつ効率的に実施するための技術研修等を実施



平成22年4月6日 参加者40名



平成21年8月26日 参加者35名

2. いしかわ森林環境基金(ソフト)事業

○県民の理解と参加による森づくりの推進

単位(人)

	事業名	H19	H20	H21
森づくりに 対する理解 の増進	いしかわ森林環境実感ツアー	128	168	131
	生物多様性シンポジウム	—	—	250
	いしかわ景観キッズプログラムの開催	—	—	152
県民参加 の森づくり の推進	こども森の恵み推進事業	4,251	2,798	3,521
	いしかわ森づくり推進月間事業	397	755	588
	森づくりボランティア推進事業	1,410	2,951	2,669
	企業の森づくり推進事業	400	1,619	3,020
	いしかわ県民参加の森づくり推進事業	—	878	1,583
	いしかわの身近な森保全事業	125	282	254
	もりの保育園推進事業	—	268	398
計		6,711	9,719	12,566

(1) 森づくりに対する理解の増進

○県民の理解を増進するための普及広報

- ・ 市町の広報誌による普及
- ・ チラシを全市町等に配布
- ・ 新聞に事業成果等を掲載
- ・ 森林環境功労者の表彰
- ・ 各種イベントにおける普及
- ・ 出前講座を各地で開催



農林漁業まつり(平成21年10月)



チラシ

○森林環境実感ツアー

一般県民を対象として、水源地域の手入れ不足人工林や間伐実施林などを見学し、森林の現状や森林の持つ水を育む機能や災害を防ぐ機能を知っていただくツアーを5回実施

日付	開催地	参加人数
8/22(土)	津幡町	22
8/23(日)	白山市	24
9/5(土)	小松市	38
10/5(土)	輪島市外	22
10/26(土)	七尾市外	25
	計	131



輪島市（平成21年10月）

○生物多様性保全シンポジウム

環境林整備事業による手入れ不足人工林の解消と生物多様性の保全に関するシンポジウムを開催

日時、場所	平成21年11月22日(日) 石川県地場産業振興センター
テーマ	健全な森がもたらす生物多様性の保全
パネラー	丸山利輔(県立大学 参与) 有川光造(県森林組合連合会 代表理事会長) 中村浩二(金沢大学 教授) 中川 巖(石川フォレストサポーター会 会長) 八神徳彦(県林業試験場 森林環境部長)
参集者	250人



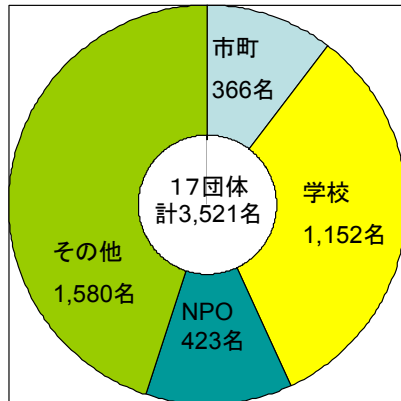
地場産業振興センター（平成21年11月）

(2) 県民参加の森づくりの推進

○こども森の恵み推進事業

子供達を対象に、森林教室、植樹、下刈、炭焼体験等の森林環境教育や森林体験活動を支援を実施するNPO等の17団体に対して支援

事業主体ごとの参加者数(H21)



珠洲市（平成21年7月）

○いしかわの森づくり推進月間事業

森の恵みに感謝し、豊かな森を次世代に引き継いでいくため、毎年10月の推進月間中に県内各地で県民森づくり大会を6カ所で開催

開催地	内 容	参加人数
加賀市	「県民の森」で広葉樹林の整備(除伐など)	45人
白山市	ブナ林整備(除伐など)	22人
金沢市	竹林の伐採、クヌギなど広葉樹の植栽	130人
内灘町	ニセアカシア林の整備、カシワなど広葉樹の植栽	250人
七尾市	広葉樹の植栽、アテの枝打ち	71人
輪島市	防風林の整備、広葉樹の植栽	70人
	計	588人



クヌギを植栽（金沢市）



カシワを植栽（内灘町）

○企業の森づくり推進事業

- ・森づくり活動による社会貢献に意欲的な企業を支援
- ・県及び市町が企業と森づくりに関する協定を締結し、社員や家族、地元住民が森づくりに参加

【実績】 平成21年度:5企業

平成19年度以降に延べ18企業20地区(県有林、市町有林)で実施



平成21年10月 輪島市



平成21年5月 金沢市

○いしかわの森整備活動CO2吸収量認証

企業などが行う森づくり活動による二酸化炭素吸収量を8団体に対して認証

認証対象者	H21年度 認証実績 (CO2-t)	
	整備活動 吸収証書	サポート活動 吸収証書
社団法人 石川の森づくり 推進協会	1.4	32.5
石川フォレストサポーター会	9.9	19.3
株式会社 エヌ・ティ・ティ・ ドコモ 北陸支社	1.8	-
NPO法人 能登半島おらっ ちの里山里海	25.9	-
麒麟麦酒 株式会社	19.3	-
加賀白山麓観光ネットワーク 協同組合	15.5	-
のと共栄信用金庫	32.5	-
輪島市林業研究グループ	2.5	-
合計	108.8	51.8



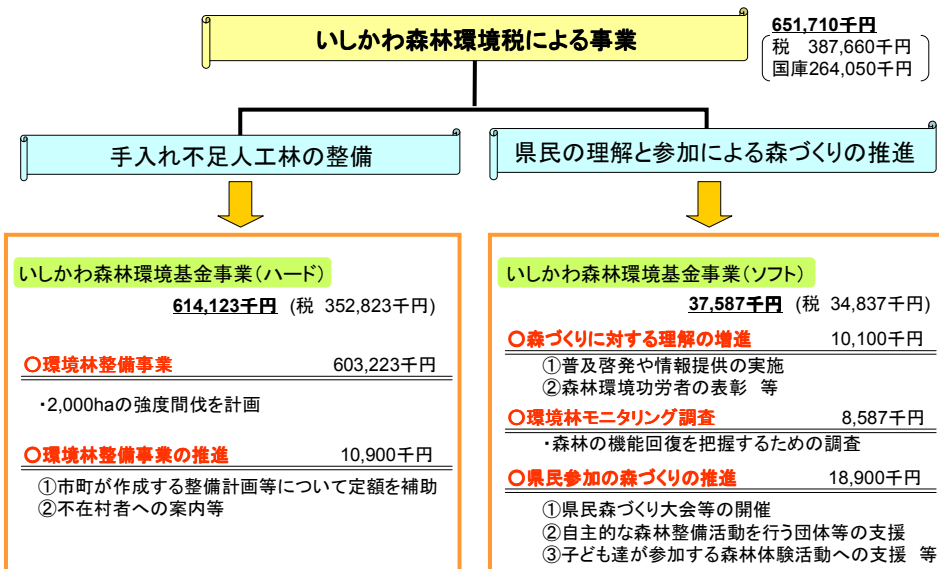
谷本知事より証書を交付(H22.2.19)



間伐材製の額に納めて交付

平成22年度いしかわ森林環境 基金事業の計画

1. 平成22年度事業計画



2. 本年度の環境林モニタリング調査の概要

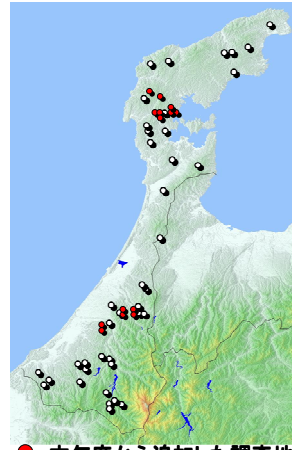
間伐実施林と未実施林、目標とする針広混交林での比較調査を実施

(1) 下層植生調査

従来からの調査箇所(40カ所)に
比較対象林(14カ所)を追加



植生回復状況調査



●: 本年度から追加した調査地点

(2) 水土保持機能調査

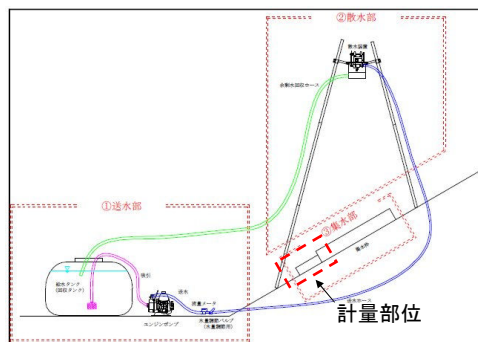
新たに40カ所で、人工降雨装置を林内に設置し、森林土壌が雨水を吸収する能力を測定すると同時に、土砂の流出量を計測し、植生の回復に伴う水土保持機能の変化を調査。

水土保持機能の調査



(写真提供: 山口県)

人工降雨試験模式図



(山口県提供資料をもとに作成)

(3) 生物多様性保全機能調査

森林環境の指標となる昆虫(18カ所)や鳥類(12カ所)
の種類や生息状況の調査を新たに実施



飛翔性昆虫のトラップ



鳥類の鳴き声の録音装置

これらの調査結果をもとに、森林の公益的機能の科学的観点からの評価を実施